

告 辞

本日晴れて東京農工大学より学位を取得された皆さん、おめでとうございます。これまで陰になり日向になり支えてこられたご家族の皆様をはじめとする関係各位にも、心よりお祝い申し上げます。ここにこうして平成25年度秋季卒業式・修了式を無事挙げる運びとなりましたことを、教職員一同大変嬉しく思っております。

本日学位を取得されたのは、農学部の学士が1名、工学部の学士が1名、工学府の修士が5名、博士が10名、農学府の修士が10名、生物システム応用科学府の修士が3名、博士が3名、連合農学研究科の博士が13名、論文博士が4名の計50名となっております。これら新たに学位記を手にした皆さん、これまでに様々な困難や苦労があったと思います。乗り越えてきたのはもちろん皆さんの努力があつてこそで、私達教職員も大変誇らしく思っておりますが、一方で自分一人の力では成しえなかったことでもあるはずで、ご家族や友人達の暖かく力強い支援、先輩や先生方の厳しくも熱心な指導、そうした周囲のサポートなくしてこの誇らしい瞬間を迎えることができたかどうかを今一度考え、今日ここであらためて支えてくださった方々に対する感謝の気持ちを思い起こしていただきたいと思っております。

さて、皆さんが本学で学んでいた数年間はどのような時代だったでしょうか。個人個人の人生においては夢に溢れた楽しい学生生活、もしくは課題に追われた忙しい勉学の日々だったかと思いますが、目を転じると、社会・経済・自然環境、どの面からみても厳しい状況が続いていると思っております。震災後の復興や原発問題も未だに多くの問題をかかえております。少しずつ上向きになったように言われる経済に希望を見出しつつも、あまり実感の持てない状況が続いております。そのような中で、私達のような教育研究に携わる者に対して期待がある一方、社会の評価の目は、益々厳しいものになってきています。社会全体

に、人々の生活に、未来に、真に役立つ研究をし、より早くしかも確かな成果をあげることが求められているのです。もちろん皆さんがその高い志を持っていることは信じていますが、歩む道が簡単なものではないことは十分にご存じでしょう。期待通りの成果がすぐに出ることなどほとんどあり得ません。しかし躓いても失敗しても、安易だが間違った道ではなく、困難でも正しいと信ずる道を選んで進んでいってください。そしてどうしても苦しい時は、この言葉を思い出して力を奮い起して欲しいと思います。

“Energy and persistence conquer all things.”

18世紀のアメリカの政治家でもあり物理学者・気象学者でもあった有名なベンジャミン・フランクリンの言葉です。energy や persistence はもちろん本人の熱意から生まれます。個人個人の内から生ずるものです。しかしその内からの力が弱くなってしまった時、皆さんがこれまでの学生生活で実感してこられたように、周囲の協力や励ましや意見や導きを真摯に受け止めれば、皆さんの中に新たな勇気や力が湧き出てきたはずです。そして根気よく粘り強く続けた結果突破口が開けたことも、実体験として得心できたはずです。これらがまた皆さんの中で energy や persistence の源となります。つまり、外部から得るものでもあるのです。そして皆さんはその結果試練を乗り越え成果を上げ、学位授与という結果を勝ち得ました。皆さんが手にしている学位は、各々の分野において専門家であることはもちろん、そうなるために今まで精進してきたこと、そして今後もどんな状況にも打ち勝つ能力があることの証明書です。これもまた自信となって、自分の内なる力として次のステップで試練に打ち勝つための energy や persistence を生み出していきます。そうしてあらゆる困難を克服し、夢を実現させていくことができるのです。

もう一度言います。現代社会において、皆さんに寄せられる期待と責任は非常に重大です。地球と人類の未来がかかっているのです。研究所、大学、企業、

官公庁と進路は様々ではありますが、皆さんはこれからそれぞれの道で専門家としての誇りを胸にその期待に忘えなくてはなりません。進路は様々でも、役割はみな同じです。『困難を克服して問題を解決し、未来へ続く道に社会・人類を導くこと』。この大学での学生生活で培った energy と persistence を大切にしていって、これからも果敢に道を切り開いていってください。皆さんの今後のご活躍を、心より応援しております。そして必要とあればいつでも本学を、そして私達を頼って来てください。一緒に道を探し前進していきましょう。本学も皆さんの力と誇りになれるよう、機動力と柔軟性に富み最先端の研究を担う大学として一層努力を重ねていく所存です。皆さんのこれからの奮闘と輝かしい将来に期待し、そして最後に本学の更なる発展と皆さんの後に続く後輩達のために今後も同窓会活動等を通じてご支援くださるよう併せてお願い申し上げ、ここに告辞とさせていただきます。

平成25年9月18日

東京農工大学長 松永 是